

## 高齢級ウバメガシ林分の更新試験について

いの町 森林政策課 林業振興係長 ○中村 咲恵  
(元 四万十森林管理署)

四国森林管理局 四万十森林管理署 係員 辻 周子

### 1 課題を取り上げた背景

ウバメガシは海岸の露岩地や風当たりの強い乾燥地など、他の種が優占できない厳しい条件下で林分を成立させます。また、昔から備長炭の原料として利用され、伐採と萌芽による更新が繰り返されてきました。しかし、炭利用の減少に伴いウバメガシの伐採量は減少、高齢級のウバメガシ林分が増加しています。

高知県大月町沿岸の国有林においても、多くが樹齢 90 年以上の高齢級ウバメガシとなり、個体の枯死や転倒が多く発生しています。高知県内ではナラ枯れ被害も点々と発生しており、高齢級のウバメガシ林分では被害の拡大が懸念されている状況です。

そこで、高齢級ウバメガシ林分を伐採し、若返りを図ろうと考えました。しかし、高齢級ウバメガシの萌芽については研究事例が少なく、適切な更新を図るためには、萌芽の発生具合やその要因について十分に調べる必要があります。そのため、高齢級ウバメガシ林分を群状に伐採し、萌芽要因との関係について調査を実施しました。

### 2 取組の経過

令和元年、大月町一切にある枝折山国有林 1306 林班ろ小班に試験地を設定し、毎木調査等を実施後、群状に伐採しました。

#### 【調査内容】

- ・毎木調査（令和元年 5～6 月）
- ・照度、樹冠の空隙調査（伐採前：令和元年 9～10 月（秋期伐採）、伐採後：令和元年 12 月～令和 2 年 1 月）
- ・伐根径、伐採高の測定（令和 2 年 1 月、7 月）
- ・萌芽状況撮影（伐採直後と 1 ヶ月後、令和 2 年 7 月）

#### 【伐採方法】

- ・伐採区域を面積 18m<sup>2</sup>・70m<sup>2</sup>・160m<sup>2</sup>の 3 タイプにわけ、18 ヶ所設定
- ・伐採時期を令和元年 9 月・10 月・11～12 月と分けて伐採

### 3 実行結果

毎木調査の結果、上層はウバメガシが占め、その下にタイミンチバナやヤブツバキ、ネズミモチが多く見られました。

伐採前の相対照度は 1%以下、空隙率は 10%前後でしたが、伐採後は相対照度 4.3%～15.5%、空隙率 15.7%～35%となりました。

萌芽状況については、令和 2 年 7 月の段階で、最も小さい伐採区域の 18m<sup>2</sup>を除き、ほとんどの株で新しい萌芽を確認できました。ただし、多くの株で、萌芽枝の一部に明らかな衰弱がみられました。

### 4 考察

照度や空隙率について、伐採前の林内の光環境は悪い状況でしたが、伐採後は伐採面積に応じて改善が見られました。大きく光環境が改善した 70m<sup>2</sup>、160m<sup>2</sup>の伐採区域においては、伐根径や伐採高、伐採時期を問わず、ほとんどの株で旺盛に萌芽しました。このことから、光環境が改善されることで高齢級であっても萌芽することがわかりました。

一方で発生した萌芽枝の一部に衰弱がみられることから、このまま萌芽更新が成功するかどうかは不確実であり、今後も検証していく必要があると考えます。

なお、今後は今回伐採した箇所の継続調査を行い、萌芽更新が成功するかどうか確認するとともに、新たに 6・7・8 月の夏季伐採、1 区画面積を 500m<sup>2</sup>に広げた伐採区域を設定し、萌芽状況を確認することとします。



ウバメガシの萌芽